



2026年4月17日

各 位

会 社 名 クリノグルフーマ株式会社
住 所 大阪市北区中之島四丁目3番51号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号：4884 東証グロース)
問い合わせ先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

米国脊髄損傷協会主催の ASIA Annual Scientific Meeting における HGF の臨床データ解析結果の発表に関するお知らせ

2026年4月24日から4月26日まで、米国テキサス州サンアントニオで開催される American Spinal Injury Association (ASIA:米国脊髄損傷協会) が主催する「The 53rd ASIA Annual Scientific Meeting」において、脊髄損傷急性期に対する HGF タンパク質の臨床データの解析結果が、以下の演題で発表されます。
(学会公式サイト：<https://asia-spinalinjury.org/annualscientificmeeting/>)

演題：Efficacy of Intrathecal Administration of Recombinant Human Hepatocyte Growth Factor for Acute Cervical Spinal Cord Injury with AIS A at 72 h Post-Injury: Phase III Study

演者：北村和也（防衛医科大学校病院 整形外科 学内准教授）

発表日時：2026年4月26日（日）9:00～9:10（現地日時）

GENERAL SESSION 8：Innovative Approaches Optimize Function and Participation

当社は、脊髄損傷急性期患者を対象として、組換えヒト HGF タンパク質である oremerpermin alfa（開発コード：KP-100IT）を投与する第Ⅲ相臨床試験（多施設共同非ランダム化試験、以下「本試験」）を実施しました。本発表では、本試験における事後解析結果を中心に、すでに終了している第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験の結果との比較について報告される予定です。重度頸髄損傷に対する HGF タンパク質治療の有効性及び臨床的位置づけについて、より包括的な知見が示されることが期待されます。

本学会は、脊髄損傷分野における世界有数の国際学術集会で、毎年開催される本学会には、脊髄損傷を専門とする医師、研究者、リハビリテーション専門家、関連分野の医療従事者が世界各国から参加し、最新の研究成果や臨床試験データ、治療アプローチに関する発表・討議が行われます。北米における脊髄損傷領域で最も重要な学術集会の一つとして高く評価されています。

当社は、本学会での発表を通じて oremerpermin alfa に関する認知度向上を図るとともに、国内開発に加え北米における開発推進を目指してまいります。なお、当社は、本学会の Silver Sponsor として協賛しています。

以上

脊髄損傷について

外傷性脊髄損傷は、交通事故や転倒等により脊髄が損傷されることで生じ、運動機能、感覚機能および自律神経機能に障害を来す疾患です。米国における外傷性脊髄損傷の年間発生率は、人口 100 万人当たり約 54 例とされており、年間約 18,000 例超の新規患者が発生しています。また、米国における患者数は約 31 万人と推定されています。近年では不完全四肢麻痺が最も多く、退院時点で完全な神経学的回復が認められる患者は 1%未満と報告されています*。

*出典：National Spinal Cord Injury Statistical Center. Traumatic Spinal Cord Injury Facts and Figures at a Glance, 2026.

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之教授及び同医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に HGF タンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGF タンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験を終了し、さらに追加臨床試験に向けた準備を進めています。また、声帯癬痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。